

港湾経済研究
港湾と地域経済・社会

日本港湾経済学会編

日本港湾経済学会年報

No. 11/1973

株式会社
成山堂書店

序

港湾の経済的機能が海・陸・空交通の要の役割を果たしていることはいうまでもないが、漁港、工業港のように産業そのものの中核をなしている港もあり、最も一般的な貿易港についても、港の存在が貿易を生み、その地に市場を形成することは普く各国の地誌や史実が示しているところである。日本港湾経済学会は、これら港湾に関するあらゆる現象や活動を経済的観点から研究しその成果を発表することを目的としているものである。すなわち港湾の行政、管理、運営の基本問題から港湾企業、港湾労働の問題を考え、更に海・陸・空の交通に関連し、港湾をめぐる市場、更には国民経済、国際経済との関連にも及ぶ。また、港湾工学の範域においても経済的見地からこれに触れる事もあり得る。従って、港湾経済論というような原論的ないしは教科書的に系統化された結論を必ずしも期待しているのではなく、会則にあるようにあくまで港湾の合理的発達に寄与する研究を積み重ねることが目的である。

本書は過去一年間における会員諸氏の研鑽成果の報告とを集成したものであり、会員始め関係識者に大に資するところがあるものと信じている。ここに執筆の会員諸氏に深甚の敬意を表すると共に、本書の編集に心魂を傾けられた委員諸氏に厚く感謝する次第である。

1973年10月

日本港湾経済学会々長 柴田 銀次郎